

令和7年度 岡本北小学校 学校評価書 (HP公表)

※ 網掛けのない部分が評価計画, 網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標 (目指す児童像含む)

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに、社会の変化に向き合い、生き抜いていくために求められる力を養う。

【具体目標】(目指す子どもの姿)

・学び合う子 ・助け合う子 ・鍛え合う子

【子どものスローガン】 「つよく やさしく かしこい子」

2 学校経営の理念 (目指す学校像含む)

学校教育目標の具現化を目指して全教職員一丸となって協働し、創意と活力にあふれ児童の主体性を生かした教育活動を展開するとともに、「安心・安全に生活することのできる楽しい学校」「自分のよさを発揮し互いに高め合える学校」「きまりを守りお互いを尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した笑顔あふれる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針 (中期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- ① ○心豊かでたくましく生きる児童を育成する教育活動を積極的に推進するとともに、一人一人が安心して生き生きと活動できる学校づくりに努める。
- ② 学業指導を基盤に、学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進し、主体的・対話的で深い学びを実践できる確かな学力の向上を目指す。
- ③ 全ての教育活動を通して、規律を守り、生命と人権を尊重する心や思いやりの心を育む道德教育を推進する。
- ④ 自ら健康や体力づくりに励むとともに、児童一人一人が健康で安心・安全な学校生活を送るための判断力と実践力を育成する。
- ⑤ 教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽を積み、指導力及び資質の向上を図るとともに、誰からも信頼されるように努める。
- ⑥ 校務の明確化・重点化・効率化を推進し、やりがいとチームとしての協働意識をもって勤務できる学校づくりに努める。
- ⑦ 学校、地域、家庭との連携、学校園における小中の連携を推進するとともに、地域の教育資源や教育力を活用し、開かれた学校づくりを推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や目標をもち、その実現に向けて、よく考え、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- ① 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則等並びに県や市の教育ビジョン等を踏まえた教育課程を編成する。
- ② 1教育目標」及び「3学校経営の方針」「5今年度の重点目標」に則り、地域や学校、児童の実態及び児童の心身の発達と特性を十分考慮して、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましい児童の育成が図れるように「7特色ある学校づくり等に関する取組」を組み込み充実した教育課程を編成する。
- ③ 学校行事や諸活動のより一層の精選を図るとともに、教育活動が創意と工夫に満ちたものになるよう教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営【児童と教職員が生き生きと活躍できる温かさと活気に満ちた笑顔あふれる学校】
 - 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、主体的に困難に立ち向かうたくましい児童の育成
 - ・ 保護者、地域、団体、企業との連携・協力体制を強化し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の推進
 - ・ 教職員の資質・能力とチーム力の向上、校務内容の改善と遂行の効率化と勤務時間を意識した働き方の推進
- (2) 学習指導
 - ・ 学業指導の充実と「宇都宮モデル」を踏まえた授業実践、及び創意工夫した家庭学習の習慣化
 - ・ 主体的に学び考えを広め深める児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり
 - 1人1台端末、ICTを活用した授業展開の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習活動の充実
- (3) 児童生徒指導
 - ・ 基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成、思いやりの心の育成
 - いじめ・不登校等の未然防止、早期発見及び適切な初期対応等による支援の充実
 - ・ 一人一人の存在感を認め合える学級づくりの充実
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
 - ・ 自分の健康や体力についての理解と年間を通しての多様な体力向上推進計画の実践
 - 自他の命の大切さを考え、危険を予測し、正しく判断して行動する児童の育成
 - ・ 望ましい食習慣の定着と健康を管理する能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価												
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 90%以上 教職員→ 90%以上</p>	<p>① <u>児童の主体的な取組を促すための設定やICT機器の日常的な活用を図り、「分かる」「できる」授業の展開に努める。</u></p> <p>② <u>話し合いの目的をはっきりさせ効果的なグループ活動や話し合う場面を意図的に設定し、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりすることで、互いの良さを認め、協働して課題解決を目指す機会を確保する。</u></p> <p>④ 宇都宮モデルを踏まえた「はっきり！じっくり！すっきり！」の流れを意識した授業構成や、学年の発達段階に応じた「振り返りの視点」を活用して振り返りを着実に実施し、振り返りの質の向上を図ることで深い学びの実現に努める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87.6</td> <td>100</td> <td>90.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>未達成</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は上学年で 92.6%であったが全校平均では 87.6%であり、指標の 90%を下回った。教職員は 100%であり、指標を上回った。</p> <p>・主体的な学びの実践蓄積や ICT 活用による交流の効率化を図ることができた。また、振り返りカードによる多角的な自己評価を行うことができた。</p> <p>・自己肯定感を高める指導の工夫に課題が見られた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②③ともに継続する。</p> <p>・②については、話し合いの機会や時間を十分に確保し、児童が学びの充実感を得られるようにする。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	87.6	100	90.1		未達成	達成		
児童	教職員	保護者	地域住民													
87.6	100	90.1														
未達成	達成															
1-（2） 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上</p>	<p>① <u>学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童の自主性を尊重しながら、互いに協力して活動する場を意図的に設ける。</u></p> <p>② 日頃から児童の善い行いや頑張りを率先して称賛し、教職員間で情報を共有する。また、各種たより等を通して児童のよさを発信し</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2</td> <td>100</td> <td>93.1</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童、教職員ともに昨年度よりも上がり、指標の 85%を上回った。</p> <p>・ふわふわ言葉の作成・意識付けが定着してきたことで、温かい言葉かけを心</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	92.2	100	93.1	95.5	達成	達成		
児童	教職員	保護者	地域住民													
92.2	100	93.1	95.5													
達成	達成															

		<p>更なる意識付けとする。また、各学級において「ふわふわ言葉」の励行を継続するとともに「ふわふわ言葉」の工夫や取組について情報共有する場を設定し取り組みの改善に生かすことで、児童の自己肯定感を高めたり、意識の高揚を図ったりする。</p> <p>③ 道徳科や総合的な学習の時間等の授業を充実させるとともに、人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。</p>	<p>掛けた思いやりのある関り方が身に付いてきた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③ともに継続する。 												
	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上 保護者→ 80%以上 教職員→ 85%以上</p>	<p>① 授業や当番活動・委員会活動等において、児童同士が目標に向かって協働する姿を積極的に認め励ます指導を通して、児童の自己肯定感を高める。</p> <p>② 道徳科の内容項目「<u>自主、自立、自由と責任</u>」「<u>向上心、個性の尊重</u>」「<u>希望と勇気、努力と強い意志</u>」等において、<u>目標に向かって粘り強く取り組むことによさに気付かせる</u>とともに、<u>実践意欲を高める</u>。</p> <p>③ 児童が目標達成に向け意欲的に粘り強く取り組む姿を、各種たよりやホームページ、授業参観等で保護者や地域等に発信・共有化を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 551 1481 651"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.9</td> <td>100</td> <td>83.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者、教職員の肯定的回答は、いずれも指標を上回っている。 ・学年だより廃止後も、HPを通じた情報発信により、保護者への周知が図られた。また、日常の当番・係活動における、教師や児童同士の称賛により、児童の活動の継続性と意欲向上が図られた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③ともに継続する。 ・各種便りやホームページ等で、適宜保護者や地域に発信していく。 	児童	教職員	保護者	地域住民	90.9	100	83.6		達成	達成	達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
90.9	100	83.6													
達成	達成	達成													
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上 教職員→ 90%以上</p>	<p>① 早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら継続して周知し指導を行う。</p> <p>② 規則正しい生活を送るために、スマホ、ゲーム等の利用時のルールや睡眠時間の確保等について、各種たよりや授業参観等を通じて家庭との連携を図ることで、日常的に指導を行う。</p> <p>③ <u>日常における安全指導を充実させるとともに、避難訓練等を計画的に実施し、危険を予測し、自らの生命を守る判断力や態度を育てる</u>。</p> <p>④ 児童が健康や安全について、自分事としてとらえるなど意識をさらに高めていけるよう、委員会活動等を中心に啓発を強化していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1115 1481 1216"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2</td> <td>100</td> <td>91.2</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者、教職員の肯定的回答は、いずれも指標を上回っている。 ・学校園統一献立、食事マナーに気を付ける箸の持ち方献立を実施したことで、児童や保護者への啓発に繋がった。 ・夏休み明けの生活習慣チェックをさくら連絡網で周知し、保護者に啓発することができた。 ・安全に関する文書を分かりやすくまとめ、さくら連絡網で周知することができた。 ・委員会活動や常時活動を児童主体となっていくことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべて継続 ・食育、保健、安全関係の内容をこれからもさくら連絡網で発信していく。 	児童	教職員	保護者	地域住民	92.2	100	91.2	100	達成	達成	達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
92.2	100	91.2	100												
達成	達成	達成													
<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りや協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答</p>	<p>① 授業や当番活動・委員会活動等において、児童同士が目標に向かって協働する姿を積極的に認め励ます指導を通して、児童の自己肯定感を高める。【A3①再掲】</p> <p>② 効果的なグループ活動や話し合う場面を意図的に設定し、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりすることで、互いのよさを認め、協働して課題解決を</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1805 1481 1906"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.1</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答は昨年度より約4ポイント減少したが、児童、教職員ともに指標は上回った。 ・学級での係活動や、授業中のグループ活動を意図的に設定することで、互いのよさを認め、協力して生活しようと 	児童	教職員	保護者	地域住民	89.1	100			達成	達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
89.1	100														
達成	達成														

	<p>児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上</p>	<p>目指す機会を確保する。【A1②再掲】</p> <p>③ 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさを自覚し、夢や目標の実現を目指して努力しようとする意欲や、望ましい職業観を、キャリアパスポートを効果的に活用しながら、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。</p> <p>⑤ 行事等の活動や振り返り等を効果的に活用し、自分はクラスのみならずと一緒学校をより良くしていく一員であるという、児童の帰属意識をさらに高めていく。</p>	<p>する姿が見られた。また、委員会活動や縦割り班活動などの異学年交流により、良好な対人関係が築かれている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを効果的に活用し、今後は単なる感想に留まらず児童が「自らの変容」に気付く指導を徹底したい。 												
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 80%以上 教職員→ 85%以上</p>	<p>① 外国語科及び外国語活動の授業において、必然性のある言語活動を設定することで、自分の気持ちや考えを表現し合うことができるようにする。</p> <p>② ALTとの連携を強化し、学年の実態に応じた外国語科及び外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。</p> <p>③ 教材教具の工夫・資料の充実を図り、英語の表現を聞く活動を意図的に増やすことで、児童の英語での発話につながる力（話す力、書く力）を高められる環境を整備する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 611 1481 712"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>76.7</td> <td>96.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>未達成</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は昨年度より低下し76.7%であり、指標の80%を下回った。教職員は指標を上回った。</p> <p>・ALTとの協働体制と視覚資料による文字への関心喚起等による授業改善を進めることができた。また、放送等による英語の日常化を進められた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③ともに継続する。 ・②については、学習の振り返りの時間を活用して児童の学びの価値付けを図ったり、朝の会等の短時間を活用した日常的な取組の機会を増やしたりする。 	児童	教職員	保護者	地域住民	76.7	96.3			未達成	達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
76.7	96.3														
未達成	達成														
	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 80%以上</p>	<p>① 宇都宮学や社会科での市内・地域に関連した学習や、生活科、総合的な学習の時間における郷土の学習等において、地域の教育力を生かし指導の充実を図るとともに、ホームページや学年だよりを活用して情報発信を行っていく。</p> <p>② 教職員が研修等に積極的に参加し、宇都宮市の歴史や文化、伝統産業等についての理解を深めるとともに、校内にフィードバックすることで、互いの指導力向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1209 1481 1310"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>82.4</td> <td>92.6</td> <td>69.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は、指標を上回っている。</p> <p>・校外学習や宇都宮学、生活科、総合的な学習の時間の授業で、児童が地域や宇都宮のよさを体験的に学習することができた。</p> <p>・教材研究を行ったり、学年間で話し合ったりすることで、宇都宮市のよさへの理解を深めることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべて継続 ・児童の問いから導入するような宇都宮学の単元構成を工夫していきたい。 	児童	教職員	保護者	地域住民	82.4	92.6	69.1		達成			
児童	教職員	保護者	地域住民												
82.4	92.6	69.1													
達成															
<p>2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上</p>	<p>① デジタル機器や図書資料を活用した授業を意図的・計画的に行い、児童の情報収集の能力や活用する力を育む。</p> <p>② 各教科等年間指導計画に関連した図書資料の整備・充実に努める。</p> <p>③ ICTを活用した読書マラソンカードの効果的な活用や朝読書の継続、毎月のボランティアによる読み聞かせ等を通じて、児童の読書活動の更なる充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1798 1481 1899"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2</td> <td>100</td> <td>81.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童、教職員の肯定的回答は、いずれも指標を上回っている。</p> <p>・デジタル機器や図書資料を活用する機会が増え、情報収集能力の向上が図れた。</p> <p>・朝読書やボランティアの読み聞かせ</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	92.2	100	81.2		達成	達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
92.2	100	81.2													
達成	達成														

			等を通じて、読書活動の充実が図れた。												
			<p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③ともに継続する。 ・①については、目的や相手に応じて情報を整理・選択する力の向上を図れるようにする。 ・③については、引き続き読書マラソンカードの効果的な活用方法を協議していく。 												
2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上</p>	<p>① SDGsについて職員研修等で教職員が理解を深めるとともに、児童が自分事として捉えられるよう、授業の導入や掲示物等の工夫・改善を図る。</p> <p>② 東日本大震災等の災害についての学習や、避難訓練を定期的実施することで防災への意識を高める。また、エネルギーや環境問題等について、自分事として捉えさせ、給食時の牛乳パクリサイクル等に前向きに取り組ませる。</p> <p>③ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。【A2③再掲】</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.2</td> <td>96.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童、教職員の肯定的回答は、いずれも指標を上回っている。</p> <p>・教員がSDGsを意識して日頃から行動したり授業で取り上げたりし、児童が自分事として捉えて行動することができる場面があった。</p> <p>・避難訓練を定期的実施し、牛乳パクリサイクルを通年行うことができた。</p> <p>・人権教育の授業公開、人権週間に人権スローガンの募集や読み聞かせを行い、人権教育の充実を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべて継続 ・校内での様々な取り組みを通じて、児童がこれからも持続可能な社会に関心をもてるようにしていきたい。 	児童	教職員	保護者	地域住民	90.2	96.3			達成	達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
90.2	96.3														
達成	達成														
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答</p> <p>教職員→ 85%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする児童について、日頃から職員間で情報交換を密にし、特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心として、校内支援委員会やケース会議等において対応を協議し、組織的な指導に努める。</p> <p>② 特別支援学級の児童や通級児童等について、個別の支援計画を作成し、合理的な配慮を伴う指導に努める。</p> <p>③ 全児童に対して全教職員が共感的理解に基づく指導に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の肯定的回答は、指標の85%を上回った。</p> <p>・職員がチームとなって児童の支援にあたり、教室内でも合理的配慮を意識した指導を心掛けてきたことが効果的だった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③ともに継続する。 	児童	教職員	保護者	地域住民		100				達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
	100														
	達成														
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上</p>	<p>① <u>いじめは絶対に許されない行為であることを、朝の会や帰りの会、道徳科の授業、学級活動等あらゆる場面を通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心掛ける。</u></p> <p>② <u>いじめに関するアンケート調査、「なんでも相談」、いじめゼロ集会、いじめゼロリボンの配付、ケース会議等の計画的な取組を通して、いじめの未然防止・早期発見に努める。</u>また緊急時には、いじめ等対策委員会の開催等、組織的に対応する。</p> <p>③ <u>全教職員が自らの人権感覚の醸成に努めるとともに、いじめと思われる案件を認知した場合には、組織</u></p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.7</td> <td>100</td> <td>82.3</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td>未達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童、保護者ともに昨年度より肯定的回答は上がったが、保護者の数値は82.3%であり、指標の90%を下回った。</p> <p>・いじめに対する取組は十分に行っているものの、その様子が保護者に伝わっていないことが原因であると考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③ともに継続する。 	児童	教職員	保護者	地域住民	97.7	100	82.3	100	達成		未達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
97.7	100	82.3	100												
達成		未達成													

		<p>的に対応する。また、各種たよりや懇談会等で、学校での取組について保護者に丁寧に説明し、理解と協力を求めていく。</p>	<p>・③については、現状の取組を継続しつつ、各種便りや懇談会での周知をより増やしていく。</p>												
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上</p>	<p>① <u>日頃から児童が互いを認め合える学年・学級づくりに努めるとともに、認め励ます指導を意図的に実施することで、児童の自己肯定感を高める。</u></p> <p>② <u>「なんでも相談」、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見に努める。また、連続での欠席等、配慮の必要な児童については、電話等により家庭との連携を密にして未然防止に努めるとともに、速やかに全教職員で情報を共有する等、校内の支援体制を強化する。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.9</td> <td>100</td> <td>90.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>・児童の肯定的回答は、指標の85%を上回った。</p> <p>・校内の支援体制が整っていることで、児童へのよりよい支援につながっている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②ともに継続する。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	97.9	100	90.1		達成			
児童	教職員	保護者	地域住民												
97.9	100	90.1													
達成															
<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上</p>	<p>① 学校行事や児童会活動、縦割り班活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定することで、児童の自己肯定感を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにする。</p> <p>② 職員間で情報共有を密にし、児童一人一人の個性や特性の理解に努めるとともに、児童の話に耳を傾けたり、前向きな声掛けをおこなったりすることを通して、認め、励ます指導に努める。</p> <p>③ 児童自らが進んであいさつができるよう、教師も率先垂範を心掛けるなど、活動を盛り上げる雰囲気づくりに心掛けるとともに、自他の違いやよさを認め合う場面や振り返りの場を意図的に設定していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.1</td> <td>100</td> <td>90.3</td> <td>95.7</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td>達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>・児童、保護者の肯定的回答は、いずれも指標を上回っている。</p> <p>・縦割り活動等を通じ、児童の主体性や自己肯定感は高まっている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・「あいさつ運動」のみでなく、日常場面で自主的にあいさつができるように意識付けを図る。</p> <p>・「さん」づけ呼称の徹底を教職員で共通理解し、他者を尊重し合える心の育成を学校全体で推進していきたい。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	95.1	100	90.3	95.7	達成		達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
95.1	100	90.3	95.7												
達成		達成													
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上</p>	<p>① ねらいを明確にして、児童の「分かった」「できた」の充実を図るきめ細かな授業を実践するとともに、振り返りの時間を確保することで基礎・基本の確実な定着を図る。</p> <p>② 朝の学習を効果的に活用し、個の特性や能力に応じて基礎・基本の定着を目指した支援を工夫するとともに、T・T、少人数指導、習熟度別学習等により、効果的な指導を行う。</p> <p>③ <u>I C T等教育機器の効果的な活用、対話を生む学習形態の工夫や、課題設定や、目的意識の持たせ方を工夫、児童が考える場面と教師が教える場面の組み立て等、単元を見通した学習計画及び授業展開を行う。</u></p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96.6</td> <td>100</td> <td>88.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td>達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>・児童、保護者の肯定的回答は、いずれも指標を上回っている。</p> <p>・振り返りカードや一人一授業等により、授業改善が進んだ。</p> <p>・習熟度別学習により、児童の学習状況に応じた授業展開の工夫が図れた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②③ともに継続する。</p> <p>・②については、発展的学習を単元の中に位置づけて計画する。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	96.6	100	88.2		達成		達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
96.6	100	88.2													
達成		達成													
<p>4-(2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答</p>	<p>① 「チーム岡北」の合言葉のもと、学校行事の準備、運営や諸問題への対応を互助的、組織的に行う。</p> <p>② 教職員の特性や得意分野が生きる組織運営に努めるとともに、互いの悩みや困り感を気軽に相談し合える職員室の雰囲気づくりに努める。</p> <p>③ 職員相互の業務内容を理解し、コミュニケーションを図りながら協</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p> <p>・教職員の肯定的回答は、指標を上回っている。</p> <p>・教科主任や学年間による指導で若手の資質向上と相互研鑽が進んだ。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民		100				達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
	100														
	達成														

	教職員→ 85%以上	かし合える体制づくりに努める。	【次年度の方針】 ・ 今後は若手が他者の授業をより多く参観できるよう授業の調整や積極的な声掛けを行い、体制を整えていく。												
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 教職員→ 80%以上	① 教職員一人一人が働き方改革の視点に立ち、業務の効率化を図るとともに、月2回のリフレッシュデーの実践など、適正な勤務時間の意識化に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、校務分掌の改善や学校行事等の実施方法の改善、業務の削減を検討し、実行に努める。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用を推進するとともに、共有フォルダ内の情報整理・共有に努め、業務の効率化を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・ 教職員の肯定的回答は昨年度を 15.4 ポイント上回り、指標を上回っている。 ・ 時間外電話対応の制限により、業務に集中できるようになった。 【次年度の方針】 ・ リフレッシュデーを推進し、計画的に業務を進められるよう働きかける。 ・ 出退勤打刻を徹底し、勤務時間を意識して業務を行えるようにする。 ・ 児童の早登校については、適切な時間に登校するよう呼びかける。 ・ 年間指導計画等、各校務分掌のデータについて、誰もがいつでも確認できるよう、整理や共有に努める。	児童	教職員	保護者	地域住民		100				達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
	100														
	達成														
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」における肯定的回答 児童→ 80%以上 保護者→ 80%以上	① 各校種や小中合同での「あいさつ運動」を中心に、学校園の各部会で企画した小中連携の取組を実践し、古里地域学校園教育ビジョンの実現に努める。 ② 学校園の学力向上部会、ICT教育推進部会、生活支援部会、交流連携部会の活動を通して、三校の相互支援体制を充実させる。 ③ 学校園各部会の取組状況を、各種たよりやホームページ等で積極的に発信していく。	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2</td> <td>96.3</td> <td>83.9</td> <td>90.9</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td>達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・ 児童、保護者の肯定的回答はともに指標を上回っている。 ・ 小中合同のあいさつ運動や乗り入れ授業を通じ、中学生への親しみや進学への意欲が高まった。 ・ 地域学校園として共通の目的でよりよい生活習慣づくりに取り組み、小中学校それぞれの特性を生かした取組ができた。 【次年度の方針】 ・ 引き続き、各種たよりやホームページ等で、各部会の取組を発信し、地域や児童、保護者に周知していく。	児童	教職員	保護者	地域住民	92.2	96.3	83.9	90.9	達成		達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
92.2	96.3	83.9	90.9												
達成		達成													
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」における肯定的回答 保護者→ 85%以上 地域住民→ 85%以上	① PTA、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、さらなる教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。 ② <u>地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業を計画・実施することで、地域の教育力を生かした教育活動を推進するとともに、取り組みの様子を各種たよりやホームページで発信する。</u> ③ <u>地域学校協働活動推進員との連携を密にし、学習支援ボランティア等の効果的な活用を図り、より充実した教育活動の展開を図る。</u>	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.7</td> <td>100</td> <td>89.6</td> <td>90.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>達成</td> <td>達成</td> </tr> </tbody> </table> ・ 保護者、地域住民の肯定的回答は、ともに指標を上回っている。 ・ 地域学校協働活動推進員の尽力で新たな地域支援の輪が広がった。 【次年度の方針】 ・ 今後は、自校化した年間計画にボランティア活用予定を組み込み、早期に情報共有を図ることで、地域資源をより計画的かつ有効に運用する体制を整えたい。	児童	教職員	保護者	地域住民	91.7	100	89.6	90.5			達成	達成
児童	教職員	保護者	地域住民												
91.7	100	89.6	90.5												
		達成	達成												

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「」における肯定的回答</p> <p>保護者→ 85%以上 教職員→ 85%以上</p>	<p>① 毎月の安全点検を確実に実施するとともに、危険箇所等が発見された場合は、迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 清掃の手順を明確に示したり、身の回りの整理整頓に関する指導を日常的に行ったりすることで児童の環境美化への意識を高めるとともに、教職員も率先垂範を心掛ける。</p> <p>③ 避難訓練や引き渡し訓練等の計画的な実施や危機管理マニュアル等の整備により、災害や不審者侵入等の不測の事態に備えるとともに、熱中症や感染症の防止対策等を万全に行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 143 1481 241"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>100</td> <td>90.6</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・保護者、教職員の肯定的回答は、いずれも指標を上回っている。</p> <p>・安全点検を毎月確実に行うことができた。</p> <p>・様々な危険を予測し、訓練等を実施することができた。</p> <p>A</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①③は継続。②は拡充。</p> <p>・清掃の手順や用具については改めて明示する必要がある。清掃班が変更になった際、清掃の手順について意識的に指導する。清掃のない日でも、自分たちで身の回りをきれいにしようとする意識を高めていきたい。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民		100	90.6	100		達成	達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
	100	90.6	100												
	達成	達成													
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」における肯定的回答</p> <p>教職員→ 85%以上</p>	<p>① ICT機器や学習用ソフト・図書資料等の整備に努めるとともに、それらの有効活用に向け、適宜研修を行う。</p> <p>② 各教科等において、学習主導主任や情報教育主任を中心にICT機器等の活用場面を意図的に設定し、活用を図る。</p> <p>③ 各教職員がICT支援員と連携を密にし、ICTに係る教材の蓄積とクラスルームの活用推進に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 792 1481 891"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>96.3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の肯定的回答は指標を上回っている。</p> <p>・情報主任による実例重視の研修により、授業へのICT活用と環境整備を進めることができた。</p> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②③ともに継続する。</p> <p>・①の図書資料等の整備については、A20の具体項目として適切ではないため、次年度は削除する。</p> <p>・③について、ICT支援員の授業での活用が図れるよう、組織的・計画的な取組を推進する。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民		96.3				達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
	96.3														
	達成														
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上</p>	<p>① 古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動の活性化を図るとともに、状況に応じた会釈の指導など、多様なあいさつの意識化・実践化を図る。</p> <p>② 学級懇談会や各種たより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を家庭に積極的に伝えとともに、「あいさつふり返しカード」を活用して学校・家庭・地域が一体となった指導を継続する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1391 1481 1489"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.2</td> <td>96.3</td> <td>84.1</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td>未達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は指標の85%を上回っているが、保護者の肯定的回答は昨年度よりも0.8ポイント下がり、指標の85%を下回った。</p> <p>・あいさつ運動への呼びかけ等が効果的で校内でのあいさつは活発になっている一方で、家庭でのあいさつには結びついていない様子がうかがえる。</p> <p>A</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②ともに継続する。</p> <p>・②については、あいさつ振り返しカードを生活習慣チェックと抱き合わせで実施していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	90.2	96.3	84.1	95.5	達成		未達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
90.2	96.3	84.1	95.5												
達成		未達成													
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、きま</p>	<p>① 「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、児童が話し合っ、自ら学級のきまりやマナーをつくるといった、主体的な取組をより一層推進</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1054 1984 1481 2083"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.5</td> <td>96.3</td> <td>92.7</td> <td>95.7</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td>達成</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>B</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	93.5	96.3	92.7	95.7	達成	達成		
児童	教職員	保護者	地域住民												
93.5	96.3	92.7	95.7												
達成	達成														

<p>りやマナーを守って、生活をしている。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上</p>	<p>する。</p> <p>② 月末の「ふりかえりタイム」において、きまりやマナーについての児童の自己評価や生活目標の達成状況等について、校内掲示板等を活用し全教職員で成果や課題を共有するとともに、各種たより等で家庭とも連携を図りながら、継続的に指導を行う。</p>		<p>・児童、教職員ともに指標を上回っている。</p> <p>・「きらりんとの約束」や給食の時間での放送により、その都度意識付けを図ってきたことが効果的だった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②ともに継続する。</p>												
<p>B3 児童は、互いに話し合い、協力して活動している。</p> <p>【数値目標】</p> <p>独自アンケート「私は、学級や縦割り班活動等の時に、みんなで話し合ったり、協力したりして、意欲的に活動している。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 90%以上</p>	<p>① 学級において、日頃から互いに助け合い協力し合うことの大切さを指導するとともに、道徳科の授業において協力・協調の態度を育む指導を充実させる。</p> <p>② 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において、活動内容の精選とねらいの明確化をはかり、話し合い、コミュニケーションを図れる場、協力して活動する場を意図的に設け、児童の取組を認め励まし、意欲の向上を図っていく。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 427 1481 528"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.8</td> <td>100</td> <td>94.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は、指標を上回っている。</p> <p>・①②日頃の教育活動で、児童の協力・協調の態度を育む指導をすることができた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・すべて継続</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	93.8	100	94.8		達成			
児童	教職員	保護者	地域住民												
93.8	100	94.8													
達成															
<p>B4 児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。</p> <p>【数値目標】</p> <p>独自アンケート「私は、家庭学習をする習慣が身に付いている。」における肯定的回答</p> <p>児童→ 85%以上 保護者→ 80%以上</p>	<p>① 古里地域学校園「家庭学習のすすめ」や岡北小「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の内容や分量、方法を低・中・高学年ごとに具体的に示すとともに、取組について称賛したり励ましたりして習慣化を図る。</p> <p>② 家庭学習の意義や自主学習を推進し家庭学習の習慣化を目指すこと、家庭学習強化週間の設定など、学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に周知し、理解や協力を得られるよう努める。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 835 1481 936"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.5</td> <td>96.3</td> <td>72.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td>未達成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は指標を上回ったものの、保護者は72.2%で、指標を下回った。</p> <p>・着実に家庭学習に取り組む児童が多く見られる一方、進んで取り組めない児童も一定数見られ、家庭学習する習慣の個人差が大きい。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②ともに継続する。</p> <p>・①、②について、児童の頑張りを称賛し、意欲の向上を図れるようにする。また、学級懇談会で家庭学習のよい取組を紹介するなどして家庭への啓発を継続的に行う。</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	85.5	96.3	72.2		達成		未達成	
児童	教職員	保護者	地域住民												
85.5	96.3	72.2													
達成		未達成													
<p>B5 自分の学校のよさを知り、自校への愛情や誇りを持っている。</p> <p>【数値目標】</p> <p>独自アンケート「私は、学校の良いところや自慢できることを知っている。」における肯定的回答</p> <p>児童→85%以上</p>	<p>① マスコットキャラクター「きらりん」の存在意義や魅力について児童と教職員が共に考え、学校教育活動全般における「きらりん」の効果的な活用を児童と共に推進することで、生きる力を育む活動のより一層の充実を図る。</p> <p>・縦割り班活動</p> <p>・各種行事(学校探検・地域巡り・地域清掃活動2・4・6年(岡本城跡)</p> <p>・総合的な学習の時間(宇都宮学)</p> <p>② 自他を理解し、尊重し合い、支え合う望ましい学級づくりを目指す活動の充実を図る。</p> <p>③ <u>地域の教育力、地域資源を活用し、連携を図った教育活動を推進する。</u></p> <p>・地域の団体・施設、地域協議会と連携した教育活動</p> <p>・各種訓練や下校時の見守り</p> <p>・各種授業における学習ボランティアの活用</p>	<p>A</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1058 1462 1481 1563"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86.0</td> <td>100</td> <td>85.6</td> <td>90.9</td> </tr> <tr> <td>達成</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答は指標を上回っている。</p> <p>・岡本城跡の清掃活動や発掘調査の見学を通じ、地域資源への理解と愛着が深まった。</p> <p>・「きらりん」を各委員会に合わせてアレンジして活用することで、より愛着心が高まった。</p> <p>・行事の名前や掲示物など、多くの場面できらりんを活用してきたことで、岡本北小を意識して取り組む姿勢につながった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・①②③ともに継続する。</p> <p>・児童が好感を持つ「きらりん」をさらに活用し、郷土の良さを誇りに思う心</p>	児童	教職員	保護者	地域住民	86.0	100	85.6	90.9	達成			
児童	教職員	保護者	地域住民												
86.0	100	85.6	90.9												
達成															

			<p>の育成を推進していきたい。</p> <p>・学校のシンボルとしての「きらりん」のプロフィールを常時掲示することで、学校への愛着心や親近感をより高め、各教育活動で効果的に活用していく。</p>
--	--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

20評価項目（全25評価項目）において数値目標を達成した。これは令和6年度より3項目増えている。また、17評価項目については、全ての評価対象において85%以上の結果を得た。これは令和6年度より3項目増えている。学校教育目標達成にむけた取組の成果と言える。この結果から、学校教育活動全般にわたり、一定の肯定的評価を得られたものと捉えることができる。

しかし、5項目において指標未達成であり、次年度への課題だと言える。また、2評価項目において肯定的回答率が80%未満となっているおり、該当項目は指数未達成となっている。課題となる評価項目は以下の通りである。

A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。

A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。

A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。（児童76.7%）

B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。

B4 児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。（保護者72.2%）

以下、4つの視点から考察する。

【学校運営について】

・A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」の評価項目について、児童・保護者の肯定的回答はいずれも90%を超えて指標を上回り、達成状況が高かった。縦割り班活動等を通じて児童の主体性や自己肯定感の向上が見られた。今後は、日常的なあいさつの定着や、教職員や児童間の「さん」付け呼称の徹底により、互いを尊重し合える関係づくりをさらに推進していく。

・A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」の評価項目について、保護者・地域住民ともに90%以上の肯定的回答を得て指標を上回っている。特に、地域学校協働活動推進員の働きにより、地域支援の輪が広がった。今後は、ボランティア活用を年間指導計画に明確に位置付け、早期の情報共有を図ることで、地域資源をより計画的・有効に活用できる体制づくりを推進していく。

【学習指導について】

・A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」の評価項目についての達成状況が高かった。振り返りカードや一人一授業等により、授業改善が進んだことや、習熟度別学習により、児童の学習状況に応じた授業展開の工夫が図れたことの成果であると考えられる。

・B4「児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。」に関する保護者の肯定的回答率に課題が見られる。今後さらに児童の頑張りを称賛し、意欲の向上を図れるようにしたり、家庭と連携して児童の学習習慣を育めるように啓発を継続的に行ったりすることが必要である。

・A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」に関する児童・生徒の達成状況に課題が見られる。学習の振り返りの時間を活用して児童の学びの価値付けを図ったり、日常的に英語を使う機会を増やしたりする。

【児童指導について】

・A10とA12の評価項目についての達成状況が高かった。校内の支援体制が強化され、職員一丸となってチームとして取り組んできたことの成果である。

○A11いじめへの指導に関する保護者の肯定的回答率に課題が見られた。現状の取組を継続しつつ、なんでも相談の取組やいじめゼロ集会等の内容を今後さらに保護者に周知していくことが必要である。

・B1児童のあいさつに関する保護者の肯定的回答率に課題が見られた。あいさつはコミュニケーションの始まりであることを学校生活の中でより実感できるようにし、家庭でのコミュニケーションが活性化するように児童に意識付けする機会を設定していきたい。

【健康体力・総合的な学習の時間・特別活動について】

・健康や安全に関する指導、環境づくりにおける項目の肯定的回答が高かった。日頃の指導や管理を徹底して行うことができたため、結果につながったと思われる。

・A4「児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」では各種便りやHPによる活動紹介等により保護者への周知が進んだことで高い肯定的回答率を得ることができた。

・A7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」では低学年児童の肯定的回答率に課題が見られる。児童の身近な岡本地域で体感できる良さも宇都宮市の良さであることに目を向けることができるよう、生活科や社会科等の校外学習において声をかけていきたい。

7 学校関係者評価

挨拶や基本的な生活習慣について、保護者の自己評価が低い点について意見があった。「家族と家で朝の挨拶ができていますか」という家庭での習慣を懸念する声や、A7、A11、B1、B4などの項目は学校にのみ求めるのではなく、家庭教育の範疇でもあるのではないかと指摘があった。児童の学校と家庭での態度が違うのではないかとこの可能性も考えられることから、それぞれの立場で「子供がどう見えているか」を共有し、互いの役割を補完し合う必要があるのではという提言があった。

学習面では、放課後の過ごし方の変化が家庭学習時間に影響を与えている可能性（学童での宿題消化など）が指摘された。指導の工夫については、自主学習の内容を掲示して視覚化することや、英語を給食の時間や朝の会で日常的に取り入れる試みが、子供たちが楽しみながら学ぶ助けになっていると評価された。一方、外国語教育については塾に通う児童との習熟度差も考慮し、わからない子を作らない丁寧な指導の継続が求められた。

いじめや不登校に関する項目で児童・保護者ともに高いポイントが維持されている点は、学校の姿勢の表れとして肯定的に捉えられた。数値目標の推移に関しては、令和7年度の児童生徒の数値が前年度比で減少傾向にある一方で、教職員や保護者の評価が上昇しているという「評価のギャップ」が指摘された。その背景を考察し、児童のよりよい成長につながる方策を見出していくとよいとの意見がでた。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様から頂いた貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度に向けてさらに組織的・継続的な取組を充実・発展させ、教育活動のより一層の充実と目標の具現化を目指していきたい。

今年度の評価では、いじめ防止や不登校支援における教職員の姿勢、委員の皆様から一定の評価をいただいた。この温かな学校の雰囲気を継続し、子供たちが自信を持ってのびのびと生活できる環境づくりを次年度も最優先事項として推進していきたい。また、外国語教育の日常化や自主学習の推進といった、子供たちの意欲を引き出し、主体的な学びに向えるようにするための具体的な学習支援についても、さらなる質の向上を図っていく。

一方で、挨拶などの基本的な生活習慣や家庭学習の時間確保については、学校と家庭の役割分担を再確認し、緊密に連携していく。児童・教職員・保護者の間で見られた評価のギャップは、それぞれの「立ち位置」による見え方の違いを示す重要なデータとなった。次年度は、この視点の違いを対話のきっかけとし、学校での頑張りや家庭での成長を互いに共有し合うことで、地域全体で子供を育てる「共育」の輪をより一層深めていきたい。